

日本国際秘書学会 2023年度東西日本支部合同研究会 活動報告

日時：2024年7月6日（土）13：00－15：30

場所：Zoom オンライン

内容：研究発表：『短大における性格分類とコーチングの試み』

大阪国際大学短期大学部 森田 篤司先生

基調講演：「研究のための生成 AI 活用術」

常磐大学総合政策学部 高池 宣彦先生

2023年度の東・西日本支部合同研究会を開催した。本研究会では、大阪国際大学短期大学部の森田篤司先生による研究発表と、学会理事でもある常磐大学総合政策学部の高池宣彦先生による基調講演「研究のための生成 AI 活用術」が行われた。

・研究発表

森田篤司先生による『短大における性格分類とコーチングの試み』が発表された。

大阪国際大学短期大学部では、モチベーションの低下により卒業に至らない学生が少なからず存在する。そこでエニアグラムという性格分類ツールを使用し、学生を9つのタイプに分けた。その後、一部の学生に対しては、その性格タイプに応じたコーチング指導を行い、他の学生には特別な指導を行わなかった。その結果を比較し、コーチング指導を受けた学生のTOEIC成績が向上するかどうかを調査した。この実証調査は、モチベーションを高め、学生の学業成績や生活全般のパフォーマンス向上を目指している。今後アンケート結果や個別インタビューを踏まえ、考察結果を本学会の全国大会で発表する予定とのことである。

・基調講演

高池宣彦先生による基調講演「研究のための生成 AI 活用術」では、研究推進の一環として、生成 AI の活用について講演が行われた。最新モデルの特徴やそれぞれの傾向を確認し、対話型 AI の利点と課題について解説した。具体的には、AI の高速データ処理能力や計画の迅速化、翻訳やコーディングの効率向上などの利点が紹介された。一方で、AI が意味を理解していない点やパターン認識への依存、再現性のない研究の増加などの問題点も指摘された。また、生成 AI の使用に関する注意点として、個人情報の入力や著作権の侵害に留意する必要があること、AI はあくまで道具であり、最終的な判断は人間が行うべきであることが強調された。講演では、ChatGPT4、Claude、Gemini などの生成 AI を用いた実例が紹介され、研究におけるリサーチデザイン、データ収集、データ分析、執筆の各プロセスにおける AI の活用方法が示された。

講演後は活発な質疑応答が行われ、有意義な支部研究会となった。

以上  
(作成 周藤)